

第1回 ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会 議事要旨

【日時】平成29年7月18日(火) 10:00~12:00

【場所】厚別区役所2階A会議室

【委員】11名(1名欠席)

所属/肩書	氏名(敬称略)
あつべつ区民協議会代表 (札幌市子ども会育成連合会厚別区支部長)	田中 昭夫
あつべつ区民協議会運営委員長・厚別のにぎわい検討委員会委員 (北星学園大学 経済学部教授)	鈴木 克典
厚別区ふれあい推進会会長 (厚別南町内会連合会会長)	牧野 弘志
厚別区町内連合会連絡協議会会長 (厚別中央町内会連合会会長)	樋田 並久
札幌市青少年科学館管理課長	鍵水 憲一(欠席)
(株)札幌副都心開発公社 取締役総務部長兼財務企画部担当部長	川尻 寿彦
厚別中央地区 子育てサロンピーちくパーク代表	西根 由美子
厚別南地区 子育てサロンぼろキッズ代表	木村 和香枝
新さっぽろ冬まつり企画会議代表/あつこい実行委員会委員 区民まつりへのご協力(厚別南町連)	波多野 達郎
北星学園大学 経済学部経営情報学科4年	片山 由貴
北星学園大学 経済学部経営情報学科4年	村上 舞

【事務局】

所属	氏名
厚別区市民部総務企画課長	國島 徹
厚別区市民部地域振興課長	佐久間 聖子
厚別区土木部維持管理課長	桑島 健

【議事・進行】

- 1 ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会について
 - 検討委員会委員の紹介を実施
 - ふれあい広場・科学館公園の再整備の目的と必要性について説明（資料1）
 - 検討委員会の今後の進め方と区民協議会との連携について説明（資料1）
 - 検討委員会設置要綱を確認（資料2）

- 2 委員長及び代理者の選任について
 - 鈴木委員を委員長に選任
 - 樋田委員を代理者に選任

- 3 広場の利用状況等、検討資料の確認（資料3）

- 4 ヒアリング・アンケートの実施及び内容について（資料4）

- 5 検討資料等に関する意見交換
 - 第2回に向けて、さらに必要な検討資料やアンケート調査の方法などについて意見交換

【検討資料等に関する意見交換の議事要旨】

（委員）

- ・G 街区・I 街区の市営住宅跡地に、病院、大学施設、商業施設などの大規模な開発が5年間を目処に行われることなどを踏まえながら検討していく必要がある。
- ・ふれあい広場（以下、広場という）は、飲食販売や火気利用などの制約を受けてしまう科学館公園（以下、公園）の一部としてではなく、利用しやすいようあえて広場として整備した経緯がある。本委員会でも、厚別区民まつりのように多くの人が集うことも検討の際に考慮していければ良い。

（事務局）

- ・市内で区民まつりを開催しているのは3区のみで、地域主体で開催しているのは厚別区のみであるため、厚別区としても誇りのあるまつりだと思う。

（委員）

- ・昨年の子どもまつりは、約 5,000 人の来場があった。各店舗で子どもが販売を行っている。子どもに経験してもらい、社会性を身に付けてもらうということを主たる目的に実施しているが、近年、子どもが減ってきているのは残念。
- ・屋外で子どもまつりを行っているのは厚別区のみである。区民のための広場があるが故にできるイベントである。

(委員)

- ・広場にある施設のパーゴラ（常設の屋根付きスペース）はそのまま残すのか、また木々はそのまま生かすのか。全て取り払って考えるものか、それとも既存の物は残す方向なのか知りたい。

(事務局)

- ・残すか残さないか、一部撤去するかということも含め、まずは自由に議論できればと思う。

(委員)

- ・アンケートの方法、回数、時間帯、曜日などの具体案はあるか。

(事務局)

- ・基本的に、利用者の多い日に調査員が公園に出向き、対面式でアンケートを行いたい。検討委員会の実施期間内を考慮して、実際に調査員が公園に出向くのは8月中で天候の良い平日と休日の各1回と考えている。
- ・イベントを目的に訪れた方の回答はイベントに関する感想が多くなると考えられるため、イベント開催日は避けたいと思う。

(委員)

- ・ゼロベースで整備の方向性を決めるのには、アンケート調査は重要である。
- ・ただ、現在の設問は実際の利用者を対象としているため、既存のものをベースに何を改善するかという尋ね方となっている。利用率や稼働率を考えた場合、新規利用者を掘り起こすという考え方から、広場や公園が認知されているのか尋ねるといった視点が必要ではないか。
- ・地下鉄のコンコースを頻繁に利用するが、広場・公園に立ち寄ったことがない、存在を知らないという人と、実際利用者には圧倒的な温度差がある。そういう視点でアンケートの対象者や内容を考えると良いのではないか。
- ・無作為に人が集う場所での意見収集を行うべきだと思う。

(事務局)

- ・了解した。利用者だけでなく、保健センター、区民センター、まちづくりセンターなどにアンケート用紙を配架し、利用者以外の厚別区民、それ以外の人に公園と広場について尋ねられるように整理したい。

(委員)

- ・アンケートは、ヘビーユーザーの意見に傾くと思う。あまり労力をかけずに広く意見を聞く方法があれば良い。
- ・平日の日中の稼働率が低い理由について、またそれに対してどうしたら良いかを聞けると良い。利用している結果を調べるのは当然であるが、利用しない理由、より利用してもらうための情報収集を行うと良いのではないか。
- ・アンケートを置くだけではなかなか関心を持ってもらえないと思うため、町内会などに協力をお願いしてはどうか。
- ・以前、ラジオ体操について町内会へのヒアリングを行った際に、高齢者が多くなって

しまうため、児童会館の職員など子育て世代に関わる方に調査協力をお願いした。今回も子育て世代の回答も回収できると良い。

- ・町内会によっては子ども向けの教室を行っているところもある。また、子どもまつりなどにもアンケート協力をお願いできると良いと思う。その辺も加味して検討してほしい。

(事務局)

- ・了解した。

(委員)

- ・地下鉄新さっぽろ駅の1番出口は雑然としている。広場・公園への出入口なので、科学館へ誘導することなどができると良い。
- ・管轄の問題もあると思うが、円山公園駅の動物のタイルのような、来訪者の誘導となる整備などについても広く議論していけると良い。
- ・併せて、公園の水回りをきれいにするというのも、利用されるための一つのキーワードになると思う。
- ・JR新札幌駅からの動線誘導サインについて、頻繁に利用する人以外は分かりづらいと思う。この検討委員会の本題ではないが、総合的に考えた場合、整備されると良いと思う。
- ・G・I街区の整備については、平成34年前後が完成であり、新たなまちとしてのスタートである。G・I街区開発事業者から広場・公園の整備で何をどう活用していくかを聞く機会を設けてほしい。一緒に何をしていきたいかを考えるときに対話は欠かせないと思う。同じ目線で考えていくという意味でも、何を考えているかを聞いた上で検討委員会での議論をしていくこととし、そういった機会を設けることが必要だと思う。
- ・例えばG街区に学生が集う複合施設ができた場合に、生活動線が郵便局側（青少年科学館の裏手側の道）になるか、広場・公園側になるかで、整備のあり方が変わってくると思う。私たちとしては、広場・公園側からサンピアザへ続く道をいかしたい。
- ・可能であれば、委員会においてG・I街区事業者との対話の機会を設けたり、委員会を傍聴してもらうことが望ましい。それらが不可能であれば、詳しい資料を用意していただきたい。
- ・平成21年度にキラキラ広場を整備した際には、ユニバーサルデザインや安心安全など、さまざまな工夫が行われた。当時のコンセプトなども情報提供いただきたい。
- ・清田区にある広場の概要と主要な利用方法などが分かると参考になると思う。可能な範囲で情報提供いただきたい。
- ・広場の利用について長期的な視点で見ると、今の若い世代の人たちが使っていくことになる。現在のアンケート対象や方法は、学生よりも上の世代向けの内容になっており、せっかく整備しても若い世代にとって魅力的で使いたいと思えるようなものにはなっていないと思う。高校でのアンケート配布や、昼間でない時間帯でのアンケート調査を実施すると良いと思う。
- ・G街区を意識すると、そういう方々の意見は貴重である。

- 学生や若い世代からの意見収集では、地下鉄や JR の利用率が伸びていることに焦点を当て、例えば JR 駅構内にアンケートを置くなど、近郊住民だけでなく公共交通機関を使って訪れる人に尋ねるのも良いと思う。
- アンケートの項目が現在の利用者に偏っていると思う。私は他区に住んでおり、この広場に公園や噴水があることを今回初めて知ったため、他区から来てもらうための視点も必要だと思う。
- 区民の広場でもあるが、立地状況からして交通の結節点でもあるため、さまざまな方々にお聞きし、区外からも来ていただきにぎわいを創出してもらうという視点もあると思う。あまりアンケート対象者を多くすると調査も大変になるので、少ないまでも多様な立場の意見を聞くということで考えていただきたい。
- 区外から来た人が住みたくなるようなまちになれば、少子高齢化が軽減できる。
- ステージの地下部分については道具などの収蔵スペースになっており、普段使われていない。あまりお金はかけられないと思うが、使い勝手の良い空間になると良い。今のままではもったいないと思う。

(最後に：事務局)

- 次回の会議は 9 月中旬の開催を予定している。アンケート結果のご報告や、実際に現地見学を予定している。

以上